

第7回 東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事概要

- 1 日 時 平成26年11月14日(金) 13:30~15:40
- 2 場 所 備前市役所3階 大会議室
- 3 出席者及び構成員等 委員9名 (内アドバイザー1名)
アドバイザー 2名 (岡山県2名)
事務局11名 (備前市4名、赤穂市4名、上郡町3名)
説明員10名
- 4 議事の概要

事務局 定刻になりましたので、只今から、第7回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。

開会にあたり、座長の備前市自治会連絡協議会会長 宇治橋様よりごあいさつをいただきたいと思います。

座 長 本日第7回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたしましたところ、委員の皆様には何かとご多用の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。昨年以來の開催となりますが、異動等により今回より新しく委員になられました方におかれましてはどうかよろしく願いいたします。さて、この東備西播定住自立圏では、ご案内のとおり圏域全体の魅力の向上、活力ある地域づくり、住みよい圏域形成を目指して、圏域共生ビジョンに基づいた様々な事業を展開しているところであります。本日は、共生ビジョンに記載した取組みの進捗状況の報告や、平成27年度のビジョン見直し(案)についてご検討いただくとともに、住みよい圏域形成に向け、お互いに意見交換やご提案をいただければと考えております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

会議の前に、構成員等本日の出席者の紹介をさせていただきます。

(名簿により構成員等の紹介)

それでは、ここからは座長、議事進行をお願いいたします。

座 長 次第に従いまして、3番目の東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況についてと4番目の共生ビジョン変更案について事務局より説明願います。

事務局 それでは、できるだけ分かり易く、また限られた時間内で効率よく説明するため、第3番目「東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について」と4番目の協議事項「共生ビジョン(第5回変更案)について」も併せて説明させていただきます。共生ビジョンの進捗状況でございますが、今年度は、現共生ビジョン最終年度ということで昨年の懇談会でも意見が出されておりました、これまで取り組んできた事業の内容を平成22年度~26年度上半期までの実績及び26年

度下半期の予定で記載して、その事業評価を一冊の事業報告書としてまとめております。

また、もう一冊の共生ビジョン（案）は、この事業報告書を受けて、来年平成27年度～31年度までの5年間を期間として大幅に変更しようとする案です。これから5年間で取り組む事業内容となりますので、説明後に皆さま方からの積極的なご意見をいただきたいと考えております。

この共生ビジョン（案）事業全体の主要な変更点が1点、4ページをお開きください。「(4) 市町の役割分担」について変更追記しております。これは、今までは国から特別交付税の交付を受けて事業の財源を賄ってまいりましたが、次年度からは交付算定方法の変更により、協議会自身で負担しなければならない部分が発生しますので、3市町で事業費の一部を均等に負担することを文言にしております。

それでは各事業に関して、本日各部会より説明員が来ておりますので、この後詳細説明をいたします。なお、ご質問等につきましては、説明後にお尋ねいただければと思います。それでは各部会から順次説明を願います。

————— (部会から説明) —————

全体を通じまして、「共生ビジョン変更案」及び「事業報告書」の26年度事業費の数値については、現段階における見込みであり、今後予算査定等を経て決定していく予定です。決定後、委員の皆様にはビジョンを送付のうえ報告をさせていただきたいと考えておりますが、今後予定されています各市町長及び議会代表で構成されている東備西播定住自立圏形成推進協議会などで、本年度中に懇談会でご協議いただく事案が発生した場合には、座長及びアドバイザーの先生と相談させていただき、会議を開催したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

座長 事務局の報告が終わりました。ただいまの報告について、質問やご意見がありましたらお受けいたしますが、できればアドバイザーの多田先生から少しアドバイスをお願いします。

アドバイザー まず、皆さんに「**何の目的で取組みを行っているのか**」考えてみていただきたい。定住自立圏の取組みは、圏域からの人口流出を防止するダム機能の役割という目的があります。地域社会を魅力的なものにしていくためには、医療と教育とか公共交通ですね、そういうところが根幹になります。この視点はとても重要ですので、是非検討していただきたいと思います。今、東京に住んでいる方の約4割が地方に住んでも良いというアンケート結果もある。では、この方々がどういった地域に住みたいのかを考えてみると良い。ポイントとしては、**子供の「教育環境」、高齢者の「医療環境」、女性の「日常生活の買い物」そして「雇用の創出」**が挙げられる。そうした視点で今回のビジョン変更案を見てみると、医療面では研修等の充実に取り組まれているが、医療サービス供給側の理論だけになっていないか。地域の患者さんがどうしたら医療が受けやすくなるかといった視点からの取組みを新しいビジョン

には取り入れる必要があるのではないか。次に、文化・歴史など地域を知るといった社会教育も大事ですが、もっと子供の成長をどうするかという教育の視点が大切なのではないかということです。吹奏楽や新規で子供科学教室といった取組みもみられるが、大人向けが多く、子供向けが少ないという状況が見受けられる。**子供を中心とした取組みに軸を移していくべき**だと感じました。次は、雇用の確保ということで企業誘致に取り組みられておりますが、200万程度の費用を支出されながら現段階では実績はゼロということで、非常に難しい状況なのだと思います。従来のやり方で同じことをやっていたのでは結果は変わらないので、もう少し評価をしっかりとさせていただいたうえで取組内容を考えていかないといけない。次に地域ブランドの取組みについて、販売額はどうなっているか、雇用は生まれているのかをしっかりと評価していただきたいと思います。人口流出のダム効果という視点から評価していくことが大切なのではないかと思います。次に圏域バスについては、現行の運行基準は、始めから税金を想定した前提になっている。徐々に民間に任せて撤退していく方向を出したうえでの社会実験として税金を投入してやるのであれば良いのですが、国の定住自立圏自体が今後どうなるかわからない。補助金がなくなった時を想定した取組みをしていく必要があるのではないか。全体を通じて、今回ビジョンを見直すわけですから、「住みたくなる、来たくなる」まちを目指し、**インパクトがある取組内容となるように変更した方が良い**と思います。

座長 ありがとうございます。先生から今回の突破口といいますか目からウロコが落ちる様な助言をいただきました。意見交換も併せて進めていきますので、皆さま方からご意見を伺いたいと思います。

委員 圏域バスについて、専用バスで利用者ニーズによって変更をして、現在既存のバスルートを微妙に避けながら運行している。つい先日、兵庫県内でコミュニティバスを運行しているところの事例を紹介したい。そこでは、バスが必要だということで、とても熱心に定期的にイベントを開催している。バスと地元の特産品を組み合わせてみる、バスと地元行事を組み合わせてみるなど、バスを利用して来てもらうことにより特産品を提供する、地元商店の割引を行うようにしている。これは、バスを利用することが第一目的ではなく第二目的にしかになっていないのですが、住民に必要な交通網であると認識していただくためには、こうした継続的なPR活動が必要ではないかと思う。あらゆる機会を機会を通じてバス交通網をPRすることで圏域バスの付加価値を高めていく取組みをしていただきたいというのが1点。

もう1点は、定住促進の視点からですが、バス業界はドライバー不足で随時募集の状況です。(生涯現役社会実現モデル事業を例に)仕事と住処をセットにした取組みを行っていく、単発的な定住策でなく、こうした地元の民間企業と一緒になっ

た取組みを行っていくのもいいのではないかと思います。

委員 先ほどのバスドライバーの雇用面での例でいえば、そうした免許取得の支援なども一つの方策として考えられるのではないかと思います。

委員 職員交流（派遣）事業について、せっかく来ているのに観覧席誘導のような役割ではもったいない。もっとこの伝統ある大きな行事が、どうした準備や調整でスムーズに進行しているのかといった、持ち帰って使えるノウハウを学べる機会にしていればと思います。次に終了したと判断した事業もあるが本当に終了して良いのかと思う事業もあるし、各施設整備事業が終わったのであれば今後活かしていかなければならないのではと思うところもある。

委員 これまでの事業で3地域の歴史的資源を巡ることができてよかったので、多くの方に知っていただければと思う。次に図書館利用について、圏域内で相互利用できているが、返却が地元図書館でできればさらに向上した取組みになるのではないかと。また、例えば、職員自身が目をつけている取組みとか、観光などの海外PRなども一考の余地がないだろうか。インパクトがある事業が欲しいですね。

委員 医療分野の研修は、公立だけでなく私立病院関係者を対象とした事業であるようですので、さらに参加広報をしていただきたい。次に、幼児教育の取組みはどうなっているのかなと思いました。例えば、各市町の子育てセンターなどの行事等の情報を統合して提供したり、どこにでもご参加くださいといった形式で相互参加できるようにになれば、〇〇市や〇〇町だけの子育てではなく、圏域の子育てになるのではないのでしょうか。ちょうど関西福祉大学にも関係が深い分野ですので協力が得られやすいのではないのでしょうか。そうなると、利用してる方の口コミ情報で良いイメージが伝達されていく可能性もあります。インパクトがないということでしたので、こうしたどこかの分野に特化した取組みも考えてみてはどうかと提案します。

アドバイザー **子育て環境をどう整えるかは、圏域構想の大きな柱になります。**

委員 参考までに上郡町では着地型観光に取り組んでおり、大鳥圭介を題材にした4コマ漫画などを入れた資料を作成して、学校での授業に少しでも取り入れてもらうように働きかけています。年1回の会議ですので、評価が困難な部分もあるのですが、事業を個別評価すると言葉の羅列になり、定住にどういった効果があったのかが見えてこない気がします。費用対効果で疑問がある事業も見受けられますので、総括的な評価を入れる必要があるのではないのでしょうか。あと、特に企業誘致に関しては、個々の対応ではなかなか困難な部分があるので、圏域全体として本腰を入れて取り組んで欲しいと思います。

委員 評価の達成状況は、市の職員が出したものだと思うが達成度合いが今一つはっきりしていないようであり、今後の方向性についても一部で廃止も見られるが、現状どおりが大半となっているのではないかと。人口を増やす施策を積極的取り入れてい

くべきであり、定住相談会の機会を増やしていくなども考えられると思うが、専門家からの意見をビジョンに取り入れていかねば、人口増につながるビジョンとならないのではないか。また、企業誘致について、なかなか新規誘致は困難な状況であると思うので、そうであれば今ある産業、企業が圏域外に出ていかないことに重点を置いた取組みが必要なのではないか。

委員 一つ一つは良い事業が行われていると思う。定住圏事業の参加者が少ないのは、情報が不足していることが原因かもしれない。山陽新聞を購読しているが、赤穂、上郡の情報は入ってきてないようであり、兵庫側の地元新聞でも同様ではないかと思うので、各新聞に「東備西播版」の情報を載せてもらえるように働きかけてみるのはどうだろうか。情報共有ができれば交流が違ったものになるのではないのでしょうか。次に、人事交流分野でイベントの手伝いや誘導整理だけではもったいないですね。義士祭のように平日にまち全体で催しを行う部分はとても貴重であり、参考になると思うので、しっかりとノウハウを学ぶ機会にさせていただきたいと思います。

座長 一通り皆さまからご意見をいただきましたので、最後にアドバイザーの先生からお願いします。

アドバイザー それでは、定住自立圏の取組みが何のためあるのか、原点に戻って考えてみていただきたい。圏域の人口維持が目的であり、そういう軸でみていく必要があります。一つ一つの事業だけをみていると視野が狭くなりがちで、**各事業は人口維持にどのように効果があったのか、どう貢献しているのかという評価を全体で行っていただきたい。**また、子育て支援の取組みであるとか、今ある地場産業を再評価していくことも人口維持に有効であるので取組んでいただきたい。**あれもこれもはできないということ、選択と集中をして絞り込んでやるのが効果的で分かりやすい取組みになります。**繰り返しになりますが、原点に戻って方向性をはっきりと出せる取組みにしましょう。

座長 会議全体のまとめとして、まず、職員の方々の熱心な取組みにお礼を申し上げます。先生と委員の方々の意見をお聞きしますと、内容を絞り込むことが1点、これは絶対必要なこと。それから何のためにするか、人口を流出させない、外から呼び込むことが目的であるという再認識、そして専門家の先生のアドバイスや委員の皆様方の意見をしっかりと取り入れて、柔軟な考え方で事業内容をシンプルすること。事務方の職員には、圏域の10万人が幸せになるために、一途に頑張っていたいただきたい。ということでまとめとさせていただきます。

座長 これで終了したいと思います、事務局から何かありますか。

事務局 (少し整理しますので確認時間をください)

座長 承認すべき事項が抜けていませんか。とりあえず、事務局に進行をお返しします。

事務局 熱心なご協議ありがとうございました。様々な意見をいただきましたが、27年

度案に盛り込む作業時間が総務省との協議等も考慮するともうあまりありません。見直せる部分は見直しますが、27年度は本案を持ってご了承いただき、意見をいただきました部分の反映につきましても、28年度以降ということで併せてご承いただければと思いますが、いかがでしょうか。

座 長 只今、事務局から説明がありましたが、座長としてはできるだけ反映してほしいところですが、困難な部分があるようです。先生いかがでしょうか。

アドバイザー この決定部分については、私は決めれる立場ではございません。あるべき姿を助言することがアドバイザーの立場であり、決定は皆様方が行うべき事項です。

座 長 決断するのは、委員だということその通りだと思います。我々の感覚では、明日にでも出来そうな感じもするのですが、全部を反映することは無理であるとのことであり、事務局の説明のとおり承認するかどうかご意見をいただきお諮りしたいと思います。

委 員 各委員から今日出された意見を今後どうビジョンに表現していくか、今後どうやって実現していくかということであって、来年度予算については、事務局の説明案のとおりで問題ないのではないかと思います。

座 長 ありがとうございます。ほかにありませんか。

委 員 我々を招集して意見を聞いて、施策に反映するのが遅れますというのであれば、もっと早く会議を開催するとか、出た意見を練り直す時間を確保していただきたいかと思うます。今年はしょうがないということで案を通して良いと思いますし、来年度以降は、早めの会議開催をご配慮いただきたいと思います。

座 長 事務局しっかりと理解いただけましたか。来年度は、早めの会議開催をご配慮いただきたいと思います。よろしいですね。

それでは、委員の皆様にお諮りいたします。これで承認していただくこととしてよろしいですか。

(「よろしい」の声)

ありがとうございます。

それでは、本日の案件については了承しました。

事務局 どうも、ありがとうございました。共生ビジョンは毎年見直すこととなっております。今回は、はっきり言って積み残しということになるかと思うますので、来年度の見直しの時には、只今いただいたご意見はもちろん、懇談会を開催する時期を早めまして十分な時間がとれるように対応させていただきたいと思うますのでよろしくお願いたします。

先ほど、多田先生をはじめ委員の皆様方からいただいた貴重なご意見は、今後の共生ビジョンに反映させていきたいと思うますので、どうぞよろしくお願いたします。

座 長 これで閉会と致します。ありがとうございました。